

3

JIMTEF 帰国研修員のジョシン・スリヤバヤ氏から、研修の成果についての報告や研修に参加した多くの研修員が高い地位や上位の組織に入って活躍しているなど、研修に参加したことによる利点が多く挙げられた。

3 名の方から JIMTEF を通して JAMT・AMTT の協力の必要性や今後の課題が示され、有意義な講演であった。

セミナー終了後、意見交換会が開催された。タイ式の乾杯を行った後タイ宮廷料理に舌鼓を打ちながら、AMTT の方や JIMTEF の方と意見交換を行い、和やかな雰囲気となった。最後に JAMT・AMTT 両会長の贈り物をそれぞれ交換し、意見交換会は終了した。研修会の看板の前で記念撮影を行っている中、AMTT 会長が気さくに写真撮影の中に入ってこれ、日本語で挨拶をされていました。とてもやさしく接していただきうれしかったです。

【2日目】

国立エイズ専門病院であるバンムラーナラドウン病院 NIH、タイ赤十字匿名診療所、チュラロンコーン大学の見学を行った。

バンムラーナラドウン病院では、HIV 抗体検査を初め CD4・CD8、PCR など HIV 関連検査の実施、地方で発生した感染症の検体搬送方法について、研修の受け入れについてなどの講義を受け、施設見学を行った。タイで作られた採血用試験管や輸送容器、導入予定の最新機器について説明を受けた。国からの予算で年 1 回 HIV 検査を無料で受けることが出来るなど、日本の制度と異なる部分が大きく驚いた。

タイ最先端の研究が行われている NIH では、NIH の位置づけや HIV キットのライセンスについて、検診車と同様どこでも検査ができる車、モバイルラボの紹介などが行われ、施設見学となった。モバイルラボが 3 台置かれており、感染症が発生した時すぐに出動できるようになっていた。日本にはないものなのでぜひとも導入していただきたいと思った。実際にタイで使用されているコントロールを見ることが出来た。

インフェクトロールに HIV が入ったものと説明をうけていたが、種類も豊富に存在し、日本のものよりしっかりとしている印象をうけた。感染のアウトブレイク時、予防・対応策を厚生省と協議する場と言われていただけあって、清潔区域と不潔区域がしっかりと区別されていたり、検査・研究室の入口にシートがひかれてあったり、暴露が発生した時のためのシャワーが設置されていたりと、感染防止策が網の目のようにひかれているのを見て、ここから感染は絶対に外には出さないという精神がよくわかった。

タイ赤十字匿名診療所では HIV のカウンセリング、HIV 検査の現在の状況、HIV 啓蒙活動などについての説明があった。日本の VCT 活動と同じだが大きく異なる点は HIV 以外の検査も実施している、往診プロジェクトがある、ほぼ毎日検査を実施しているなどが挙げられる。私は VCT 活動に参加しているが、人数が限られていることや検査できる項目は HIV のみなど、ジレンマが多い。本場の VCT 活動を目の当たりにして、日本の VCT 活動はまだまだ成長段階であると思った。

タイ国 VCT 活動から得られるものはたくさんあると思う。少しでも反映できればと考えている。

チュラロンコーン大学では、前日のセミナーで講義していただいたヨング・ポボラワン先生に研究室を案内していただいた。先生が発表した鳥インフルエンザを中心とした論文が所狭しと廊下一面に張り出されており、先生の研究成果が一目瞭然でした。

タイ国王妃が入院中のため、多く見学することはできなかったが研究室をみるのが初めてだったので、こんなふうに行っているのかと感心した。

【感想】

タイの臨床検査技師・医師の講演や観光旅行では絶対に入れない大学の研究室や病院の見学ができたことは検査技師としての幅を広げるいい機会であったと思います。

日本は医療先進国といわれますが、タイの HIV 検査感染への取り組みや新しい感染症が発生した時の対応策など多くの面でタイ国のほうが勝っているように感じました。それは感染症抑制に成功し、今の日本の安全な風土となるまで数々の苦労があるためですが、現代を生きる若い世代は今まで日本でなされてきた対策や研究が全く分からないため、なぜ日本は遅れた考えなのだろうか、もっと新興感染症・再興感染症に対して目を向けないのだろうかという疑問に感じてしまいます。感染症やその他の疾病に対する対策は万全であると言われてしまえばそれまでですが、医療関係者のみならず一般市民へアピールすべきではないかと思えます。

今回、研修を受けた以外にタイの町や世界遺産であるアユタヤへ行く機会がありました。いく先々に生活があっっているような職業があっ、どの場所も活気があっみんな一生懸命生きているというのを肌で感じました。カルチャーショックは大きかったです。国と歴史と国を守る国王陛下をすべてのひとが大切にしていることが町を見るたびわかりました。だからこそ、政府も国民一人ひとりを守るために感染症無料検査や支援が手厚くなされているのだと思います。日本とタイが今まで以上に友好関係を結び、お互いのいい所を学び合いながらさらに両国が発展することを願います。 <完>

